

令和4年11月19日(土)

大月駅近神社・史跡巡り

島崎

1, 行事名「標題通り」

第3回小山田信茂公関連史跡巡りに替えて、コロナウィルス感染対策を実施して参加募集人数を15人として、マスク着用、検温対策等のもと15名の参加予定者が、1名急用で不参加となり14名での「大月駅近神社・史跡巡り」を実施した。

2, 日時場所等

日時 : 令和4年11月19日(土) 10:00 大月駅集合~14:40 大月駅解散

参加人数: 14名

3, コース

- ① 大月駅 ②岩殿山説明 ③銅像 ④秋葉神社 ⑤菊花山登山口 ⑥無辺寺
- ⑦ 明治天皇御召替所跡 ⑧天王宮 ⑨天神様 ⑩大嶽山 ⑪柱状列石 ⑫お稚児落とし
- ⑬神田神社 ⑭浅利與市像 ⑮観音堂 浅利竹ドーム(昼食) ⑯御太刀塚 大月市民会館(休憩)
- ⑰三島神社 ⑱成田神社 ⑲志賀夫人 ⑳厄王山



4, 内容

① 大月駅 *体温測定・確認



写真1 注意事項説明



写真2 集合写真

② 岩殿山説明

- ・ 岩殿山標高最高地点 634mは、テレビ塔ある地点。展望台は少し低い（乃木大将の碑がある。）
- ・ 鉄塔が建っている辺りが築坂峠（筑坂が正式か?）。この先に大手門がある。下ると桂川の橋がある。興和工場の敷地跡から刀剣が出土した。



写真3 案内図

鉄塔



写真4 岩殿山（バイパス脇道より）

③ 像

背面の銘板には下記が記されています。

「 大月市東中学校三年五組
生徒氏名
昭和三十三年秋」



写真5 像

④ 秋葉神社

屋敷神社の秋葉神社と神明神社を合社して大月町の4神社の1つになっている。

秋葉神社は火防（ひよけ）・火伏せの神。

大月市：御太刀、大月1・2・3丁目、花咲、大月（沢井）、真木

- * 讒言により武田勝頼から蟄居を命ぜられた小宮山内膳が居た所（林宝山裏＝現、沢井地区）。勝頼の最後には駆けつけて共に亡くなった。
- * その後織田・徳川の落人狩りを逃れるため、小宮山から小宮と改名したと思われるが、5・6年前に確認分かった事です。沢井には右横書きの古いお墓が1基ある、この家が小宮山内膳の子孫と思われる。



写真6 秋葉神社

⑤ 菊花山登口

大月町にとっては貧乏山（1日の半分しか陽が当たらない為）
正式名「林宝山（林峰山？）」



写真7 菊花山登山

⑥ 無辺寺

幕末の三剣士 桃井春蔵の菩提寺 *三剣士：千葉周作、斎藤弥九郎

- * 強瀬の全福寺に耳塚がある。幕末の僧斎藤が、近藤と土方と同郷の盟友にて宿を提供した。幕府は新撰組の行動を憂慮し、井上八郎に鎮撫を命じた。説得に応じない脱走者と山中湖付近で合戦となり、首謀者十余名を切り伏せた。同じ幕府方として心を痛め十余名の耳を削ぎ落とし持ち帰った。この耳を僧斎藤が耳塚を建立して懇ろに弔った。昭和六十二年に聖観音像を建立した。
- * 無辺寺は北条と徳川の寺紋が使われているので両家により守られていた寺である。



写真8 無辺寺「桃井春蔵の菩提寺」

⑦ 明治天皇御召替所跡

明治十三年の明治天皇御巡幸で桂川を渡る際に着替えた所。



写真9 明治天皇御召替所跡

⑧ 天王神社

明治期に起きた伝染病のため、神の助けを願うため、津島神社を分社勧進した。以前は8月に盛大に祭りを行っていたが、昭和33年に国道20号線の大月橋が架設された際に、移動され社地も狭められてために賑やかな祭典が成されなくなった。因みにご神体は「素沙納の尊」で社名は牛頭天王宮（祇園神）と伝わっています。



写真10 天王神社

⑨ 天神様（天満神社）

藤原道真を祀った神社。左遷した道真が無くなった後に起きた天変地異のため、怨霊を鎮めるために祀った。道真公は優れた学者であったことから「学問の神様」ともされた。

大月地区の方が守っている神社。



写真11 天神様（背面に本殿）

⑩ 大嶽山那賀都神社

本社は西沢溪谷の手前にある神社。

御祭神 ・大山祇命（おおやまつみのかみ）：開運福德の神
・大雷神（おおいかずちのかみ）：五穀豊穰の御利益があるとされている。
・高竈神（たかおかのかみ）：水神信仰と知られるが、当社では菓仙の神。

2月3日に節分にてお祓いの儀式がある。



写真 12 大嶽山那賀都神社

⑪ 柱状列石

昔、柱状列石で教科書に載った箇所ですが、現在は崩れ防止工事のためコンクリートに覆われている。

*近くで見ると一部柱状列石が見える。



写真 13 新浅利橋より対岸

⑫ 稚児落とし

武田家が滅亡した後に、北条軍が岩殿城に向かって
いる状況で、千鳥姫と従者の小幡と逃げる際に稚児
を落としたとされる絶壁。

別説では稚児は浅利郷で育てられたとの説もある。
姫はさらに葛籠峠（とづらとうげ）を通過して東光寺
に身を寄せた。

稚児落とし



写真 14 稚児落とし

⑬ 神田神社

浅利の地名は浅利與市が住んでからの地名。それ以前は日向荘

この神社は浅利与一公と浅利太郎が1219年に御嶽権現を勧請したのが始まり。

1396年に神田明神を勧請・合祀したと伝わっている。

御祭神 一之宮：大己貴命（おおなむちのみこと）：縁結び・夫婦和合・子授け・安産・五穀豊穰・商売繁盛・厄除け・開運・養蚕守護・病気平癒・産業開発・交通安全・航海守護

二之宮：少彦名命（すくなひこなのみこと）：医薬・病気平癒・酒造繫栄・五穀豊穰・国土平安・諸産業興産・航海守護・漁業守護・縁結び

三之宮：平将門命（たいらのまさかどのみこ）：除災厄徐・武運招来・関東の守護

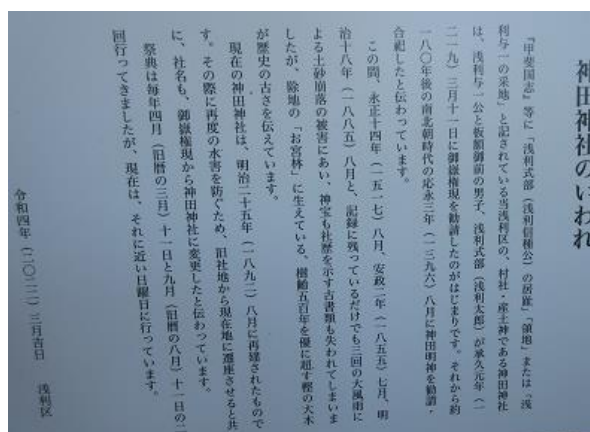


写真 15 神田神社

⑭ 浅利與市像 *源平の戦いでの三興一の1人

- ・浅利與市 壇ノ浦の戦いで平中納言知典盛より射返すように挑まれ、義経から丁寧な言葉で依頼され、約440m先の新居紀四郎親清を射抜いた遠矢の名手。
- ・那須野與市 屋島の合戦で扇の的を射抜いたことで有名
下野国那須野が原の那須氏の十一男。この功績で総領となる。
- ・佐奈田義忠（与一） 石橋山の戦いで討死 *父岡崎義実は三浦義明の弟。

浅利與市の父は武田冠者・源清光の十一男。源平の戦い後の奥羽合戦の功績により陸奥国比内地方の地頭職を宛てがわれた。甲斐国中の地領が川の氾濫で川底になったことと、和田義盛の乱にて波加利荘・波加利新荘が武田と島津に与えられたことにより移ってきたものと思われる。

浅利與市像は安政六年の天神山崩落により流失し、明治二十九年に再建された。

昭和四十七年の墓石移転時に、與市の子孫で武田家武将として三増山の戦いで大勝せしも鉄砲にて戦没した浅利信種の遺骨を、愛川町より分骨して合祀した。



写真 16 浅利與市像



写真 17 浅利信種公墓碑

⑮ 浅利観音堂 *説明看板より

元暦二年（1185年）の源平合戦最後の壇ノ浦の戦いで功績のあった浅利與市と妻板額御前との第一子市若丸を、鎌倉幕府二代将軍頼家の子八幡の身代わりとして、比企能員の変で失った悲しみを癒すため、観音堂を建立したのが起源と伝わっている。三増峠で戦死した浅利信種の嫡子浅利昌種が本田忠勝の家来となってこの地を離れてからは完全に村持ちの観音堂となった。都留郡三十三番札所の十五番札所です。明治以降一時期廃堂の時期もありましたが、昭和十三年に再建し、現在の観音堂は昭和六十年に建て替えたものです。



写真 18 観音堂・小祠（三代目?）・内部のお札（小山田信茂公の名前も見えます。）

浅利ドームにて昼食

⑯ 御太刀塚

36振りの刀が出土された。一振りは青銅製なのでかなり古い物と思われる。

大月市のかかり火祭りの起源は、修行僧が高月橋を渡ろうとした際に、霊がすごいことになっている事を指摘された。翌年より、霊を鎮めるためにかがり火祭りが行われることになった。自殺の名所だった高月橋は、橋の架け替えと、よじ登り対策により自殺者は皆無となった。



写真 19 御太刀塚（左側は旧塚碑）

大月市民会館 休憩（水分補給）

⑰ 三島神社（旧郷社（戦前の社格、県社より下、村社より上）

大同元年（806年）伊予国（愛媛県）大三島の大山祇神社より勧請された。富士山の噴火続き田畑山林の荒廃厳しいため、木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）の御怒りを鎮むべく、父神に坐す大山祇命をお迎えし、復興の精神的よりどころとしたと言ふ。

- * 以前は、現、厄王山の場所にあったとのことであるが、現在地に移動した。
- * けや木の大木の根元に「大槻」と掘られた石が以前は4個あったが、現在は3個。
- * 小山田信茂公の御首級と伝えられる鬼面石（おにずらいし）があります。



写真20 三島神社（参道入り口の石碑）

⑱ 駒橋の不動尊

もともと不動尊の祠があったところに立派な建屋を建立した。



写真21 駒橋 不動尊

⑱ 志賀夫人

信州佐久地区の志賀城攻めで功績があった小山田出羽守信有は、武田信玄より志賀城主・笠原清繁の妻（当時 22 歳位？）を与えられました。本妻の居る都留から離れた駒橋に住まわされた。

- * 20 号バイパスのトンネルを掘った際に金を使ったものが発掘され、志賀夫人住居跡との遺物と思われた。
- * 志賀夫人のお墓は、七保町葛野（字大島）の宝林寺（曹洞宗（無住））にあります。
- * 駒橋の名前の由来は、日本武尊が桂川に馬を並べて渡ったことによるとのことです。



写真 22 志賀夫人住居跡祠

⑳ 厄王山大権現

【厄王山大権現】

薬師如来が祀られており、南側にある御前山山頂付近には奥の院があります。

参詣の便を図るため、昭和 3 年(1928 年)に本殿が建立されました。

- * 明治の初めに眼科医に勧められ奥の院の水で目を洗ったら直ったと言い伝えがある。現在もきれいな水が湧き出ている。

【平和祈願の石】

昭和二十年八月十三日大月町を襲い。この時投下された爆弾の一つは桂川で爆発しその爆風は一、五トンの石をふき上げ百余米の高さに達したという。附近は人家密集地であったが、厄王大権現の霊験によって当神社庭先に落下し町民はあやうく難をまぬかれた。

時移り世が進むにつれ、地区に住む人びとが、厄王大権現を畏敬し当時落下したこの石を、平和祈願の石と名づけここに安置したものである。



写真 23 平和祈願の石



写真 24 厄王山大権現

以上

※ 参加された方のお話

- ① 大月地区内に四つも神社があった事に驚いた。普段、歩いているのに気がつかないなんて。
- ② 疑問に思っていたことが。納得できた今回の散策でした。
- ③ 浅利観音堂の横の祠に、まさか信茂公のお札があるとは、驚いたと同時に何か意味があるように感じた。
- ④ 天気も良くてとても楽しい散策でした。